

様式第1号

兵庫県福祉サービス第三者評価基本調査票

1 評価機関

名 称	特定非営利活動法人 こども応援隊
所 在 地	神戸市灘区摩耶海岸通2-3-14
評価実施期間	平成23年10月17日～24年3月2日 (実地(訪問)調査日 24年1月26.27日)
評価調査者	HF06-1-0034 HF06-1-0033 HF06-1-0038 HF10-1-0016

※契約日から評価
結果の確定日まで

2 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称：社会福祉法人 みかり会 (施設名) 夢の森保育園	種別：保育園
代表者氏名：理事長 谷村 誠 (管理者) 園長 小林 峰子	開設(指定)年月日： 昭和・平成 16年 4月 1日
設置主体：社会福祉法人 みかり会 経営主体：社会福祉法人 みかり会	定員 60名 (利用人数) 72名
所在地：〒655-3016 神戸市垂水区高丸6-3-1	
電話番号：078-704-3008	FAX番号：078-704-3150
E-mail： @	ホームページアドレス： http://

(2) 基本情報

理念・方針 法人「自身の成長・そしてお返しを」						
力を入れて取り組んでいる点 人と人との多様な関わり						
職員配置 ※()内排働	職 種	人 数	職 種	人 数	職 種	人 数
	保育士	9 (6)		()		()
	調理委託	()		()		()
		()		()		()
施設の状況 子ども達は、広い環境で、ゆったりと過ごしています。 保育士は、経験を通して、様々な事を学んでいます。						

3 評価結果

○総評

◇特に評価の高い点

- ・各委員会活動は、施設ごとの代表者が集い、法人内全体での取り組みが特徴的でした。理念・方針実現に向けて、中期事業計画、短期計画を定期的な委員会で諮り、改善見直しが繰り返され、職員にも伝達、反映されていますので、PDCAのサイクルが機能しているものでありました。
- ・組織運営については、法人内「運営会議」・「スーパーバイザー会議」において協議、決定され、同じ情報をリアルタイムで共有することが出来るシステムが確立されていました。また、情報伝達漏れが発生しないように、チェック機能もあり、周知の方法にも工夫が見られました。
- ・職員が評価を受審するにあたって、マニュアルの見直しや保育の方法を話し合い、取り組んできた努力が見られました。子どもが園で穏やかに過ごしている様子も伺え、一人ひとりが大切に援助されていることが現場で確認できました。

◇特に改善を求められる点

- ・法人主導で組織体制、設備整備、職員体制、人材育成などが行われて細部まで網羅されていますので、管理者の位置づけが法人と園長の場合があるため、施設管理者である園長と法人管理者である本部との情報共有を深めることが組織強化につながると思われます。
- ・法人全体でのマニュアルやシステムが整備されていますので、施設特有の地域性や環境の反映が行われると、更によりよいものになると考えられます。
- ・隣接する幼稚園との関係は 施設の特徴に挙げられますので、保育の計画などに盛り込み積極的な関わりを持たれることで、地域性や環境がより有効的に活用されると思われます。

○ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

独自の運営システムが確立されており、質の向上への取り組みを繰り返し行われておりました。

マニュアル作成は、職員が中心となった委員会での策定で、より現場に即した文書となっており、周知や見直しの方法も機能的に行われていました。

毎年、第三者評価を法人内施設で受審されるなど、自己研鑽が進んだ組織だと考えられます。

○各評価項目に係る第三者評価結果
(別紙1)

○各評価項目に係る評価結果グラフ
(別紙2)

評価細目の第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針を確立している。		
Ⅰ-1-(1)-①	理念を明文化している。	a
Ⅰ-1-(1)-②	理念に基づく基本方針を明文化している。	a
Ⅰ-1-(2) 理念や基本方針を周知している。		
Ⅰ-1-(2)-①	理念や基本方針を職員及び利用者やその家族等に周知している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> 法人理念を「自身の成長、そして、お返しを」と定め、保育理念を「人としての素地を培う」と文書化し、子どもの最善の利益を考慮し、いのちある すべてのもを大切にすることができる人としての素地を培うとして、利用者の尊厳など目指す方向や考え方を読み取ることが出来た。理念は事業計画や広報誌などに掲載されていた。 保育理念に基づく基本方針を「教育の方針<感知融合（総合的人間力を培う）>」と「養護の方針<アットホームな“昼間の家庭”>」に区分し具体的に明記していた。また、基本方針は、事業計画や広報誌などに掲載されていた。 理念や基本方針は、新任研修・法人内研修（年1回全職員対象）において、職員に周知されており、保護者には「ほいくえんのしおり」を配布したり、入園説明会にてお知らせしていた。
--

Ⅰ-2 計画の策定

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画を明確にしている。		
Ⅰ-2-(1)-①	中・長期計画を策定している。	a
Ⅰ-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画を策定している。	a
Ⅰ-2-(2) 計画を適切に策定している。		
Ⅰ-2-(2)-①	計画の策定を組織的に行っている。	a
Ⅰ-2-(2)-②	計画を職員や利用者に周知している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> 理念や方針の実現に向けて、法人内の委員会（サービス向上・リスクマネジメント・コンシダレーション・オンリーワン）において、「中期事業計画」を作成している。また、定期的に委員会を開催して進捗状況の確認や計画の見直しが行われていた。 各委員会の「中期事業計画」実現に向けて「短期計画・実績報告書」が作成し、具体的な内容と実施日を設定し評価が出来るよう配慮されている。 「短期計画・実績報告書」に基づき、各委員会が、実施・評価・課題を継続的に確認していくシ
--

<p>システムが確立されており、計画の見直しや反映につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議では各委員会からの報告を毎回行い、理解できるようになっている。 また、保護者や地域には毎月発行される「ほいくコラム」に委員会の取り組み欄で説明が行われていた。
--

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果
I-3-(1) 管理者の責任を明確にしている。	
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
I-3-(2) 管理者のリーダーシップを発揮している。	
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・職務基準表において法人内の役割を文書化している。管理者自身の行動の把握については、年に1度保護者へ「いかがですかカード」を配布し情報を収集している。 また日々の行動に対しては、保育状況を記した「パーソナルシート」を毎日配布し、保護者からの意見も記入出来るようになっている。 ・法令等を理解する機会としては、保育園連盟等の研修会に参加したり、法人内「運営会議」の報告により、把握している。 ・管理者である園長は、グループ会議、ケース会議、月案検討会に参加し保育サービスの質の向上について参画し指導力を発揮している。 ・経営や業務の効率化については、法人全体で共有し「運営会議」において分析し取り組みが行われている。その内容については、スーパーバイザー・チーフアドバイザーを通して、園長への情報提供が行われている。
--

評価対象II 組織の運営管理

II-1 経営状況の把握

	第三者評価結果
II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	
II-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境を的確に把握している。	a
II-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	a
II-1-(1)-③ 外部監査等を実施している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・園児の動向表を毎月チェックし、福祉事務所や関係機関からの情報を収集して把握している。 ・経営状況の分析などは「運営会議」にて協議している。コスト分析は「リスクマネジメント委員

<p>会」において、「コスト意識の醸成」として議題にあげて継続的に話し合われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計士と契約し指導や指摘事項に基づき「運営会議」において経営改善の取り組みが行われている。

II-2 人材の確保・養成

	第三者評価結果
II-2-(1) 人事管理の体制を整備している。	
II-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランを確立している。	a
II-2-(1)-② 人事考課は客観的な基準に基づいて行っている。	a
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮している。	
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みを構築している。	a
II-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制を確立している。	
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示している。	a
II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画を策定し、計画に基づいて具体的な取組を行っている。	a
II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a
II-2-(4) 実習生の受け入れを適切に行っている。	
II-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	a
II-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取組を行っている。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・「職務基準表」や「組織図」により、必要な人材や人員配置が検討されていた。人員配置については、法人主導でおこなっている。 ・年3回園長との面談が行われ、その際に自己評価表と研修計画（個人）を提出し、課題を明らかにしている。園長からは、本人の目標や達成状況などのフィードバックも行われていた。 ・職員の就業状況などは、毎月チェックし把握しており、職員の意向に応じて有給休暇が取得できるような体制が整えられている。また、相談などは、法人内「部長」や「スーパーバイザー」、外部では「労務士」が窓口として行っている。 ・福利厚生事業として、社会福祉協議会互助会に加入するなど積極的に取り組まれている。 ・「中期事業計画」には、職員が目指す保育サービスの内容が具体的に明示されて、計画に反映している。 ・職員一人ひとりに「研修計画表」を作成し、自己評価や面談を通して、計画を実行されていた。また、法人内研修会も様々な分野にわたり開催し、外部研修にも参加するなど積極的な活動がみられた。
--

<ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後は、出張報告書と共にレポートを提出させ、全体会議において発表し、その内容を共有、検討し、園で反映されている。 ・「実習生受け入れマニュアル」があり、指示すべき事柄や職員の心構え、目的、意義など具体的な文章で表し明確な体制が整備されている。 ・実習生に対するオリエンテーションは、園長が行い指導の内容、流れ、配慮事項などを説明し、一人ひとりの実習計画が作成されている。

II-3 安全管理

	第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取組を行っている。	
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制を整備し機能している。	a
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全を確保するため、「リスクマネジメント委員会」を設置して、「安全管理マニュアル」を作成し、安全対応、安全対策、事故対応、緊急時対応、情報管理など細やかな対策が文書化し周知、報告されていた。 ・毎日、「安全点検表」により施設内をチェックし、ヒヤリハット事例や報告を活用して、事故防止に努められていた。
--

II-4 地域との交流と連携

	第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係を適切に確保している。	
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
II-4-(2) 関係機関との連携を確保している。	
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	a
II-4-(2)-② 関係機関等との連携を適切に行っている。	a
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握し、事業・活動を行っている。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりは、「オンリーワン委員会」を中心に、地域を知り、地域ニーズへの対応をしていく体制が明確に整えられている。 併設施設として、市立幼稚園・地域福祉センターなどがあり、都度交流を図っている。 また、トライやるウィークなどの職業体験を積極的に受け入れる体制が整っている。 ・毎月、地域向けに「コラム」を作成し、掲示発信している。雑木林の開放や体験保育など保育園の機能を地域還元されている。

<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア受け入れにあたって」マニュアルがあり、基本的な考え方や経験から感じてほしいことなどが文書化されている。 保育ボランティアとして、紙芝居や音楽などの受け入れを行ってきた。 ・「オンリーワン委員会」では、地域との協働をテーマに課題を掲げ計画実行されている。 ・併設の市立幼稚園との交流、小学生への雑木林開放などを行い、幼保小の連絡会にも参加し連携を図っている。 ・「オンリーワン委員会」において、地域や関係団体への情報交換や情報収集、分析を行い、「中期事業計画」にも明示し、組織的、継続的な取り組みが行われている。
--

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢を明示している。	
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	
Ⅲ-1-(2)-① 利用者の意向の把握と満足の向上への活用に取り組んでいる。	a
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制を確保している。	
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みを確立し十分に周知・機能している。	a
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・園のしおり・ホームページ等に明示しており、法人経営理念・方針・保育理念「人としての素地を培う」より指導計画に連動した保育課程となっている。子どもを尊重した保育を実施するため、11月に実施された「内部評価事業 (tomorrow challenge)」や新任研修、園内研修、担当者会議等で取り組まれている。 ・子どものプライバシー保護については規程、マニュアルが整備し取り組まれている。書類、電話対応にも配慮されていることが確認できた。 ・「いかがですかカード」により年1回の保護者アンケートを実施している。また、「コンシダレーション委員会」が分析・検討し、改善し、結果は公開されている。 ・保育園の取組として「パーソナルシート」「ご意見カード」「いかがですかカード」があり、「園のしおり」に案内されている。園内には落ち着いた雰囲気や相談や意見が述べやすいスペースもあった。 ・苦情解決の体制を整備し、「園のしおり」に記載されていた。検討内容や対応策は保護者に迅速にフィードバックしていることを確認した。
--

・「苦情対応マニュアル」があり、意見を収集し、検討は「コンシダレーション委員会」が中心となり改善を図っている。

III-2 サービスの質の確保

	第三者評価結果
III-2-(1) 質の向上に向けた取組を組織的に行っている。	
III-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a
III-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a
III-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a
III-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法を確立している。	
III-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法を文書化しサービスを提供している。	a
III-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みを確立している。	a
III-2-(3) サービス実施の記録を適切に行っている。	
III-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録を適切に行っている。	a
III-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制を確立している。	a
III-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a

特記事項

- ・「サービス向上委員会」にて職員の意見が提案され、保育に反映している。自己評価は年2回（6月、3月）実施している。
第三者評価受審実績もあり、法人内の施設間で分析、検討する会議の場がある。
- ・委員会や内部評価事業の課題は、職員会議「夢会議」にて報告、分析し、職員間で共有化されている。
- ・課題は「サービス向上委員会」が中心となり、改善する仕組みがある。
- ・保育場面において標準的なサービスの実施が行えるよう「0歳児、1・2歳児、以上児約束事」マニュアルなどがあり、目的・方針が定められている。自己評価や研修、「内部評価事業（tomorrow challenge）」の実施において確認する仕組みがある。
- ・年3回の自己チェックに加え、「内部評価事業（tomorrow challenge）」、保護者アンケート「いかがですかカード」で出た意見・提案が反映されるような仕組みになっている。
- ・子ども一人ひとりの指導計画はPDCAサイクルに基づき実施し、経過記録、「パーソナルシート」に記録されている。また、項目があらかじめ設けられており、ばらつきが生じないような工夫されている。
- ・「個人情報管理表マニュアル」があり、保護者には確認書にて同意を得ている。職員とは守秘義務の誓約書を取り交わしている。
- ・職員会議録や「パーソナルシート」を活用し、情報が全職員に届くよう整備されている。

III-3 サービスの開始・継続

		第三者評価結果
III-3-(1) サービス提供の開始を適切に行っている。		
III-3-(1)-①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a
III-3-(1)-②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a
III-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		
III-3-(2)-①	事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービス内容が誰にでもわかるように、パンフレットを作成し区役所に置かれている。 ・保育園利用するにあたっては「園のしおり」に基づき説明があり、保護者とは「確認書」にて同意を得ている。 ・引き継ぎ資料を作成し、園のしおりにも相談の仕組みが記載されている。窓口は担任で責任者は園長が手続きを行っている。
--

III-4 サービス実施計画の策定

		第三者評価結果
III-4-(1) 利用者のアセスメントを行っている。		
III-4-(1)-①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a
III-4-(1)-②	利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a
III-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画を策定している。		
III-4-(2)-①	サービス実施計画を適切に策定している。	a
III-4-(2)-②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況は「パーソナルシート」や保育日誌に記録・把握し、定期的な見直しが行われている。 ・アセスメントを実施し、担当者会議において、子ども一人ひとりの課題が示されている。 ・指導計画策定は、「パーソナルシート」での連絡や口頭連絡等で利用者の意向や子どもの特性に応じた保育ができるようなシステムがある。 ・指導計画の見直しについては、「担当者会議」「サービス向上委員会」等により、チェック・評価・改善ができるようになっている。変更や見直しは園独自のシステム閲覧により全職員に周知することができる。

評価対象Ⅳ 実施する福祉サービスの内容

Ⅳ-1 子どもの発達援助

	第三者評価結果
Ⅳ-1-(1) 発達援助の基本	
Ⅳ-1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成している。	a
Ⅳ-1-(1)-② 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a
Ⅳ-1-(2) 健康管理・食事	
Ⅳ-1-(2)-① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a
Ⅳ-1-(2)-② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
Ⅳ-1-(2)-③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。	a
Ⅳ-1-(2)-④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	a
Ⅳ-1-(2)-⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている。	a
Ⅳ-1-(2)-⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a
Ⅳ-1-(2)-⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a
Ⅳ-1-(2)-⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a
Ⅳ-1-(3) 保育環境	
Ⅳ-1-(3)-① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
Ⅳ-1-(3)-② 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。	a
Ⅳ-1-(4) 保育内容	
Ⅳ-1-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	a
Ⅳ-1-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	a
Ⅳ-1-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる環境を整備している。	a
Ⅳ-1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取組を行っている。	a
Ⅳ-1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が体験できるように配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a
Ⅳ-1-(4)-⑨ 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a

IV-1-(4)-⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	a
IV-1-(4)-⑪ 障害児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・法人理念のもと、保育が進められており、アンケート等でも保護者の意向を反映されている事が確認できた。 ・月案のチェックや会議録、日誌は定期的に評価しており、日々の保育に活かされてた。 ・健康管理等のマニュアルも整備し、日々の体調の変化も健康調査表やパーソナルシート、また朝の受け入れの際に保育者が丁寧にヒヤリングしていた。職員室の中に体調の悪い時や薬を服用する部屋が設置されてた。 ・健康診断の結果は周知しており、子どもの発達状況の把握と配慮も保育の現場やヒヤリングで確認できた。守秘義務も遵守されていた。 ・歯科健診の結果は職員に周知されており、歯磨きやフッ化物洗口が行われていた。 ・感染症マニュアルは様々なケースに対応できるよう作成し、全職員が対策や方法を共有できていた。 また、保護者に対しても掲示板などを有効に活用し、周知されていた。 ・食事をする部屋として、レストランを設置し、幼児はバイキング形式で配膳し、友だちと楽しく食事を進めていた。厨房担当者も配膳の手伝いをしながら子どもたちの様子をみたり、声かけをしていた。 ・調理は委託業者と契約し、月1回の話し合いは、法人本部も交えて行われており、喫食状況を反映して献立が作成されていた。また、食器も素朴な素材で提供されていた。 ・玄関に献立表が見やすく工夫して掲示し、展示食も置かれていた。また、レシピを用意し保護者への意識づけもされていた。 ・アレルギー疾患を持つ子どもに対しては、検査結果や口頭による確認の上、適切に対応されていた。また、食事も個食にならないよう職員が意識をして一緒に食事をしていた。 ・園舎は採光に配慮し、心地よく過ごすことのできる間取りになっていた。また、衛生管理はマニュアルのもとに整備されていた。 ・園の環境は目的別に整えられており、それぞれの発達に応じた環境を整備していた。ゆったりと遊べる空間や絵画を楽しめる空間も作られ、雑木林も自然に触れる空間として利用されていた。 ・職員全体が穏やかに子どもに接しており、肯定語で保育を進めていた。朝の受け入れも一人ひとりの子どもの表情を確認して受け入れていた。 ・生理的現象に対しては、子どものリズムに合わせてトイレに促していた。衣服の着衣着脱も声を

<p>かけながら行い、子どもの気持ちを大切に進めてられた。 また、休息も一人ひとりに応じた配慮がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら考えて遊べる環境に配慮されており、園のルールのもと生活が進められていた。 ・園内に雑木林があり、散歩で自然物を採ったり、季節の事象に触れたりできる環境が整備されていた。地域との交流は、隣接した幼稚園と園庭を共有して関わりをもっている。 ・子どもの意見も取り入れながらの「フェスタ」の練習が行われており、子どもの興味や関心に応じて、絵本を読んだり、紙芝居も読まれていた。 ・異年齢児保育の中で様々な活動がみられ子どもどうしのルールのもとで遊びが展開されていた。 ・子どもは、保育者に自分の意見を伝えられる環境が整っており、職員もゆったりと関わっていた。権利擁護の研修は法人全体で行われ、法人方針の中にも「人としての素地を培う」の方針のもとに進められていた。 ・性差への固定観念を植え付けることなく、一人ひとりに保育が丁寧に行われていた。 ・乳児保育は月齢別保育が進められており、一人ひとりの空間が確保し、穏やかな時間を保障されていた。0歳児保育は一人ずつのベットがあり、ゆったりと寝る環境も整っていた。SIDSのマニュアルもあり、周知されていた。 ・子ども中心の時間が確保されており異年齢児との関わりも密に行われていた。長時間の子どもたちが寂しくならないようにゆったりできる空間を整備していた。 ・バリアフリーなどの環境整備や、配慮の必要な子どもの受け入れ制は整えられていた。
--

IV-2 子育て支援

	第三者評価結果
IV-2-(1) 入所児童の保護者等への育児支援	
IV-2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a
IV-2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	a
IV-2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a
IV-2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	a
IV-2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a
IV-2-(1)-⑥ 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a

特記事項

- ・ パーソナルシートをもとに日々の様子を情報発信されていた。保育参加、個人懇談を行い保護者と共通理解をしていた。
- ・ パーソナルシートを利用して保護者との情報交換は円滑に行われていた。
- ・ 保育参加、個人懇談を行い保護者と共通理解をされていた。
- ・ 「児童虐待防止マニュアル」があり、各関係機関と的確な対応ができるような取り組みが進められていた。
- ・ 「虐待防止マニュアル」に基づき、連絡先を明示していた。
- ・ 一時保育は積極的に受け入れ、通常保育のクラスで共に過ごす体制で取組まれていた。

IV-3 安全・事故防止

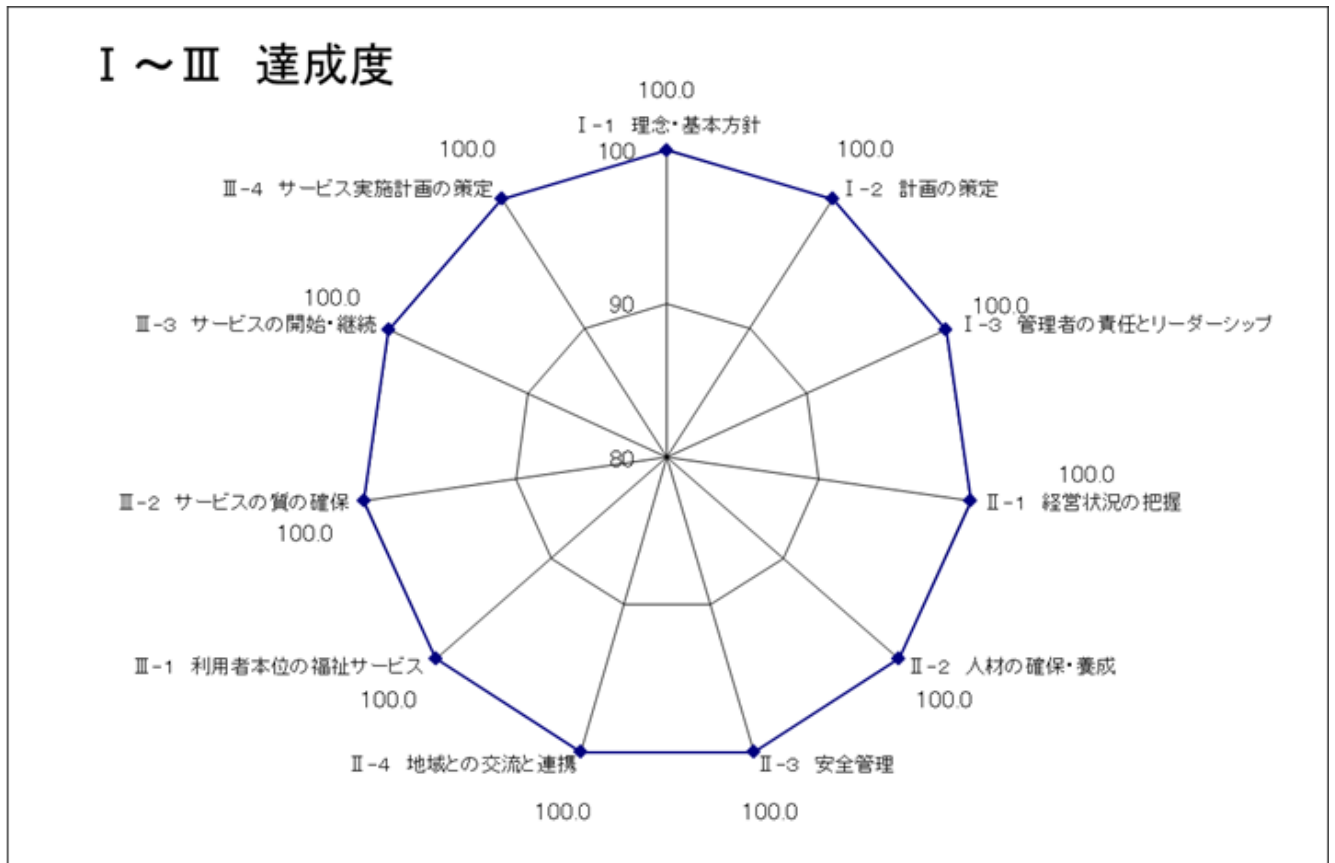
	第三者評価結果
IV-3-(1) 安全・事故防止	
IV-3-(1)-① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施している。	a
IV-3-(1)-② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知している。	a
IV-3-(1)-③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	a
IV-3-(1)-④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	a
IV-3-(1)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	a

特記事項

- ・ 「衛生管理マニュアル」があり、調理場、水回りなど衛生管理に努めていた。嘔吐の世話と処置はマニュアル通りに行われている場面が見られた。
- ・ 「食中毒発生時のマニュアル」があり、対応整備していた。マニュアルの見直しは委員会や調理委託業者と連携して見直しされていた。
- ・ 安全のための点検を定期的に行われており、職員会議にて「ヒヤリハット」、事故報告書により検討し改善策を考え職員全体に周知されていた。
- ・ 「事故対応マニュアル」が整備し、定期的な見直しや、リスクマネジメント委員会が中心になり職員周知されていた。
- ・ 「防犯マニュアル」を整備し、警察署と連携も行われ、避難訓練も実施されていた。

I～III 達成度

	判断基準		達成率(%)
	基準数	達成数	
I-1 理念・基本方針	9	9	100.0
I-2 計画の策定	14	14	100.0
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	15	15	100.0
II-1 経営状況の把握	9	9	100.0
II-2 人材の確保・養成	33	33	100.0
II-3 安全管理	11	11	100.0
II-4 地域との交流と連携	30	30	100.0
III-1 利用者本位の福祉サービス	22	22	100.0
III-2 サービスの質の確保	28	28	100.0
III-3 サービスの開始・継続	10	10	100.0
III-4 サービス実施計画の策定	10	10	100.0



IV 達成度

	判断基準		達成率(%)
	基準数	達成数	
1-(1) 発達援助の基本	5	5	100.0
1-(2) 健康管理・食事	46	46	100.0
1-(3) 保育環境	16	16	100.0
1-(4) 保育内容	70	70	100.0
2-(1) 入所児童の保護者等への育児支援	17	17	100.0
3-(1) 安全・事故防止	21	21	100.0

